コーリーさん、キャンモア町から英語指導に来町

姉妹都市、カナダ・キャンモア町（アルバータ州）から、英語教育指導員としてコーリー・チューイーさん（27）が来町しました。5月7日、松岡市郎町長にあいさつの後、町内小学校児童を対象にして英語活動の指導がスタートしました。

カナダ・カルガリー大学卒。TESOL（他言語話者に対する英語教授）上級証書取得。バンフ教育センター（英語を母国語としない人のための英語学校）で英語教師、バンフ町の夜間英語教室で英語教師をしていました。指導経験は豊富です。

「キャンモア、カルガリー、ヨーロッパで日本人の学生などに英語を教えていた経験があるので、日本人は熱心という印象があります。町の人たちのために夜間英会話教室をさっそく開きましょう」と意欲的です。

キャンモア町との姉妹都市提携20周年を機に、記念事業としてコーリーさんを招きました。

町内では、外国語指導助手としてリンジィー・マクドナルドさんが既に中学校で英語指導しています。これで本町の英語指導員は2人体制になりました。平成23年から本格実施予定の小学校英語授業開始（5、6年生）に先行して、コーリーさんの指導成果が期待されます。

今年も豊作祈ってお田植え祭

5月13日、東川町西2号北1、三田常男さん（62）の水田で、今年も神饌田お田植え祭が行われました。

北海道神宮（吉田源彦宮司）に奉納する神饌米を毎年生産してきました。満31周年を迎えた今年、先代の父親与志男さん（91）から耕作者の2代目を引き継ぎ、新たな米作りのスタートを切りました。

神職の清め、豊作祈願の御神楽「五穀ちらし」に続いて、早乙女12人、介添え役の若者6人が水張りしたばかりの水田に入りました。

今年は時折小雨が舞う肌寒い田植えでしたが、ゆっくりとしたリズムの田植え歌に併せて、「ほしのゆめ」の早苗を一株ずつ手で植え、昨年に続く大豊作を祈念しました。

旭岳でSAJ雪山スキー救助訓練

4月24日から3日間、（財）全日本スキー連盟（SAJ）が主催して旭岳で山岳スキー雪山指導者研修会が行われました。

今年で5回目。ニセコひらふスキー場（後志管内倶知安町）と両会場に別れ、旭岳では冬山遭難救助、バックカントリースキーの楽しみ方が講習テーマです。道内各地のスキー場などで活動するスキーインストラクターを対象に約30人が参加しました。最高齢は札幌市内から参加した72歳。

旭岳ビジターセンターの菊地基さん、三段山クラブ代表の大西人史さんの2人を講師に、雪中に埋めたビーコンの発信場所を探し出し遭難者を救出する訓練、シールをつけて山スキーで雪中登坂する訓練など、雪崩遭難の救助方法の基本を学びました。また雪山に残る足跡から動物の行動を推測したり、旭岳に自生している樹木の特長を観察するバックカントリーの楽しみ方も満喫しました。

雪中に埋まった遭難者をビーコンで発見する訓練

黄金週間ドライブラリー、過去最高の人出でにぎわい

ゴールデンウィーク後半の5月3日から5日まで3日間、町内は春の行楽シーズン入り恒例の「2009ひがしかわみちくさドライブラリー」に参加する家族連れでにぎわいました。

町内の休日ドライブを楽しみながら、ラリー形式で「くう」「みる」「はまる」3つのテーマで町内31店舗、施設を回って、見て、食べて、抽選でお楽しみ景品も当って大満足、という企画。好天が続いた3日間、いずれも1日300人の予定人数に達する申し込みでにぎわいました。5年目を迎えて、手軽な家族サービスとして定番になりつつあるようです。

ちょっとドライブ気分でパスポートの発行を受けたら、スタート地点の道草館を「さあ、出発！」。道草館前の餅つきで出来たてのお餅をほおばりながら、町内の家具工場、クラフト工房めぐり、旭岳・天人峡の温泉めぐりなどに繰り出しました。

今年は定額給付金支給に合わせて実施した町内商店街の「つかみ取り祭り」とも相まって、ひと際にぎわいも増したようです。

花本建設、清掃ボランティア

5月7日、花本建設㈱（旭川、花本金行社長）が町内中心市街地の道路ごみ拾い清掃ボランティアをしました。

農村環境改善センターで開いた同社安全大会に先立って行いました。安全祈願祭の後、社員約50人が8班に分かれて市街地の道路沿いに落ちているごみを拾い、用意してきたトラックに―。

既に町内ごとに春の一斉清掃が済んでいるため大きなごみはありませんでしたが、空き缶やペットボトル、空の弁当箱トレーなどが見つかりました。「犬を連れて散歩している姿を見かけるけれど、意外にも犬のフンはなかった」と予想以上に愛犬家のマナーの良さを実感したようでした。

「つらし楽しくフェスティバル」に人出も満開

5月23、24の両日、キトウシ森林公園で第46回暮らし楽しくフェスティバルが開かれました。

春の会場のメーン、フリーマーケットは、例年の混雑を緩和するために出店数を100店少なくして200店舗に絞ったため、ややゆったりと会場内を回れました。

人気の春花の苗販売コーナーは「ここで苗を買わなければ1年の庭造りが始まらない」と毎年買い求めに来るファンも多く、例年ながら飛ぶような売れ行き。取れたてのウド、フキなど春の野菜もすぐに売れ切れ続出でした。

浜頓別町からの〝海の幸直送便〟テントでは、かにの甲羅焼き、ホタテ焼きのおいしいにおいに誘われて、ちょうど漁期に当たっている毛がにの産地直売に買い物客の列ができました。

初日の23日、やや天候に恵まれなかったものの、キトウシ森林公園の春の名物、シバザクラもちょうど見ごろを向かえ、家族連れの歓声でにぎわいました。